

科目名 建築法規Ⅲ					
担当教員	石井 孝典		実務授業の有無	○	
対象学科	建築士専攻科	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	80時間
授業概要、目的、授業の進め方	建築法規は、建築基準法、都市計画法、建設業法、建築士法などによって建築物を計画、設計するうえで様々な法規制がなされており、国民の生命、健康、及び財産の保護を図っている。そのため、これらの法規は常にその時代の変化に対応して、改正がなされている。また、具体的な技術基準等は建築基準法施行令に譲っており、二級建築士の学科試験「建築法規」の出題範囲ともなっている。単なる暗記科目ではなく、それぞれの法規に盛り込まれた制度・規制内容を立体的に把握し、理解することの重要性を解き明かしたい。計4回の模擬試験を通して二級建築士学科試験「建築法規」において、21点（25点中）以上の取得を目指す。				
学習目標（到達目標）	二級建築士学科試験の学科Ⅱ（建築法規）で合格基準（15点）以上に達することを目標とする。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	二級建築士学科新体系テキスト法規、二級建築士学科新体系問題集法規（TAC）				
NO.	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	一般用語の定義／防火関連用語の定義		難しい建築基準法上の用語の定義を具体例を示しながら解説、法律的な用語の定義を正しく理解する。		
2	確認申請手続／その他の手続		建築物着工前の確認申請手続をはじめ各種諸手続のながれを解説、確認申請が必要な建築物については立体的な思考で。		
3	建築面積・建築物の高さ・階数等		建築物の延べ面積、建築面積、高さ、階数等の原則的な考え方をしっかり把握し、その後例外（除外）規定にいたる。		
4	階段の寸法・有効採光面積等の一般構造規定		階段の寸法、有効採光面積等は、法が要求している最低限の規定内容にとどまらず、人間工学的な立場からもアプローチする。		
5	建築設備（換気・排煙設備）		居室空間の換気（自然換気・機械換気）の必要性・メカニズムを理解し、それぞれの室内空間に適した換気方式を知る。		
6	構造計算・構造強度規定		各種建築物の構造計算のフローチャートを解説、許容応力度等及び限界耐力計算の基本を理解する。各種構造の仕様規定も。		
7	防火区画・防火壁		一定規模以上の耐火・準耐火建築物に必要とされる防火区画、木造建築物に必要とされる防火壁は屋内火災の延焼防止。		
8	耐火建築物・準耐火建築物		全国どこでも一定規模以上の特殊建築物は、耐火または準耐火建築物で。防火・準防火地域内の建築制限との違いを明確に。		
9	内装制限・避難施設等		屋内火災の延焼抑制を目的とした内装制限、火災時の避難道線確保を目的とする避難施設の規定がある。重要性を解く。		
10	道路規定		建築基準法上の「道路」とは、どのような道路を言うのか。道路と敷地の関係、道路内の建築制限を図説し、理解を得る。		
11	用途地域・用途制限		都市計画法が描く用途地域（街づくりの青写真）、及びその地域内での建築制限について解説、基準法別表（2）を読めるように。		
12	「容積率」制限に関する問題		各用途地域内での建築物の延べ面積の限度を計算できること、また住宅地下及び附属車庫の延べ面積不算入制度を理解する。		
13	「建ぺい率」制限に関する問題		各用途地域内での建築物の建築面積の限度を計算できること、耐火建築物を建築する場合等の緩和規定についても理解する。		
14	斜線制限（道路斜線制限を中心に）		建築物の形態規制（絶対高さ制限、道路斜線、北側斜線、隣地斜線制限）を図説により解説、緩和規定についても理解する。		
15	日影規制		建築物におよぼす日照の影響、隣棟間隔係数から解説し、日影規制の内容を図説する。対象区域外の建築物にも注意。		
16	防火地域・準防火地域内の建築制限		建築基準法22条（屋根不燃区域）にもふれ、街区内の建築物の防火措置の必要性を説く、「5並べ図説」でやさしく理解。		
17	建築基準法の適用範囲／応急仮設建築物等		災害時の応急仮設建築物、工事現場の仮設事務所等建築基準法の全部または一部の適用が除外される場合があることを学ぶ。		
18	建築士法・都市計画法・その他の関連法規		その他関連法規の概要を学ぶ。高齢者・身障者への配慮規定を盛り込んだ「新バリアフリー法」・「品確法」についても理解を得る。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
各テーマごとの小テスト、模擬試験(4回) 模擬試験90% 小テスト10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。			1級、2級を問わず、年々難易度の増している建築士試験である。4ヶ月間しっかりと集中して授業に取り組み、かならず全員合格を勝ち取ってほしい。 予習・復習を欠かさず行うこと。		
実務経験教員の経歴	一級建築士として、建築物の設計、工事管理について、15年間携ってきた。				